

次期学習指導要領 1枚まとめ｜高校

国語 高校

話す・書く・読むを「話や文章の機能」でつなぐ教科へ

10秒でいうと　必履修は現代の国語Ⅰ・言語文化Ⅰ。選択は現代の国語Ⅱ・言語文化Ⅱと発展4科目に再編

高校の国語は、必履修の2科目の枠組みと単位数を保つ方向です。名前は「現代の国語Ⅰ」「言語文化Ⅰ」（いずれも仮称）とする案です。選択科目は、標準の2科目と発展の4科目に組み替える案です。理系で「論理国語」だけ、といった学びの偏りをなくすことがねらいです。古典は、文法と口語訳に偏った指導の見直しが示されています。

1 必履修は「現代の国語Ⅰ」「言語文化Ⅰ」

必履修は今の枠組みと単位数を保つ方向です。論理的に考える力や伝え合う力を中心に育てる「現代の国語Ⅰ」（仮称）を置きます。感性や情緒を理解し、豊かに想像し表現する力を育てる「言語文化Ⅰ」（仮称）も置きます。この2科目を必履修とする案です。 P80 P137

授業では 今の「現代の国語」「言語文化」の年間計画を、科目のねらいに合う教材と活動か点検しておく。それが準備の一例です。

2 選択科目は「標準2科目＋発展4科目」に

今の選択4科目（各4単位）を組み替える案です。標準科目「現代の国語Ⅱ」「言語文化Ⅱ」（各8新単位、仮称）を、大多数の生徒が学ぶことを想定して置きます。その上に「論説と批評」「対話と表現」「文学と創作」「古典と文化」（各4新単位、仮称）を置きます。 P80 P137

授業では 理系クラスの国語の履修を点検し、標準2科目を置いた場合の教育課程の案を教科会で試しに作る。そんな準備が考えられます。

3 教材は「科目のねらい」で選ぶ

教材は、その科目で主に育てる力に合うかで判断する整理です。論理的な力を育てる科目でも、ねらいに合えば文学作品を扱えるとしています。感性を育てる科目でも、論説文や批評文を扱えるとしています。実用文は報道文や広告などを中心に扱うと明記する方向です。 P138

授業では 論理の科目で、小説の一場面について書かれた批評文を読み、根拠の示し方を分析する。そうした組み合わせが考えられます。

4 古典を身近に、文法偏重を見直す

高校の古典は、身近で親しみのあるものと捉え、関心をもつことを重視する方向です。小中との学びの接続を強めるとしています。文語文法と口語訳に偏った指導を見直すことも示されています。言語文化への理解を深める学習の充実もあげられています。 P136

授業では 口語訳の確認に時間をかけすぎず、古典の表現が今の言葉や文化にどうつながるかを話し合う時間をとる。そんな授業が一例です。

ほかにも変わること（高校）

- 「話や文章の機能」（仮称）で3つの領域の学習をつなぐ P131 P134 P139
- 高校の国語科目の組み替え（選択科目を標準＋発展に） P129 P137 P138 P80 P82
- 「思考力、判断力、表現力等」の示し方を、文章の種類と考える要素の「ひとまとまり」に P134 P138
- 「知識及び技能」を「運用しながら深める」と「教養として深める」の2つに整理 P131 P135 P138
- 評価のやり方の整理（形成的評価を重く、まとめの評価は後で） P129 P142
- 生成AIの使い方とローマ字入力の扱い P129 P140
- 教科書の教材を「基幹教材」と「関連教材」に分ける P139
- 情報の扱い方・語彙・読書・古典の学習をさらに改善 P136

原田英語.com 次期学習指導要領ナビ｜https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/｜2026年11月4日 版

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。出典：審議まとめ（2026年10月5日）。告示前の方向性です。